小規模多機能型居宅介護「サービス評価」　総括表

法人名	特定非営利活動法人 ドリーム	代表者	理事長 金子　敏
事業所名	小規模多機能型居宅介護 あおぞら館	管理者	西脇　真

法人・事業所の特徴	平成23年3月に、旧越路町で初めての小規模多機能型居宅介護として、住み慣れた地域で在宅生活をしながら「小規模多機能型居宅介護」の特性である柔軟で臨機応変なサービスを利用できる。家庭的な雰囲気のなかで、顔見知りの職員が自宅にも訪問し、使い慣れた環境の施設で通いやお泊りも実施している。 施設の環境として、農村住宅地にあり、事業所の畑もあるのでご利用者・職員とで野菜の収穫などに行きながら、周辺住民の方ともあいさつやお話し合える関係性を築いている。認知症のご利用者・ご家族から、在宅生活に不安を感じられる方も多く、併設の認知症対応型グループホームもあるので、随時相談にのっている。独居や老々世帯のご利用者も多く、緊急時や災害時に遠方のご家族も安心してご利用頂けるように定期的に近況報告や連絡をとるように努めている。

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援ｾﾝﾀｰ	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1　人	1　人	2　人	1　人	1　人	1　人	人	2　人	人	9　人

項　　目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A．事業所自己評価の 確認	自己評価を行う時期は次年度７月末までに行う。 管理者を中心に、計画に対する取り組みを定期的に話し合う場（ミーティング、定例会議など）を活用して、日頃より意識していく。	管理者の準備不足で令和７年８月に自己評価実施。 パート職員も自己評価を実施し話し合いにも参加した。	自己評価の時期を業務計画にも表記し管理者を中心に行っていく。	自己評価を行う時期は次年度７月末までに行う。 管理者を中心に、計画に対する取り組みを定期的に話し合う場（ミーティング、定例会議など）を活用して、日頃より意識していく。 （前回と同じ）
B．事業所の しつらえ・環境	オレンジカフェは茶話会だけでなく、認知症の専門医や関係機関から講演などの企画も行っていく。	オレンジカフェは、茶話会を中心に毎月開催を予定し、長岡市のホームページにも開催日が載っている。事前申込みが必要。 四季を感じられる壁画をご利用者と職員とで作成している。	手すりの消毒や職員は食事以外マスクを着用している。	オレンジカフェは茶話会だけでなく、認知症の専門医や関係機関から講演などの企画も行っていく。
C．事業所と地域の かかわり	越路地域で昨年より地域コミュニティ事業がはじまり「子育て福祉部会」に参加しているので地域活動の機会に参加できる企画に参加していく。	地域コミュニティ事業のイベントでは日頃の活動の成果を発表したり、毎月作成している壁画の作品展示にも参加した。	子供から高齢者が参加する企画では、企画スタッフ・当日スタッフとしても参加した。	今後も地域コミュニティ事業と関わりを深くして、職員と利用者も地域活動に参加していく。

D．地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	感染症対策を行いながら、散歩やドライブに出かける。 地域コミュニティ事業の活動に参加して、地域とのつながりを増やしていく。	感染症対策を行いながら、四季を感じられる場所や散歩にもでかけた。地域コミュニティ事業では地域の方々が参加するイベントにサポートメンバーとして関わったり、作品提供などもして知ってもらう機会をつくれた。	地域勉強会に参加できた。 今後も職員が参加することで自己研鑽と他のサービス事業所と交流も図れる機会となった。	地域コミュニティ事業の活動に参加して、地域とのつながりを増やしていく。
E．運営推進会議を活かした取組み	今後もあおぞら新聞を発行して事業所の活動を掲載し、新規のご利用者やご相談があった時や地域の方に事業所を知ってもらうための材料に活用する。	地域の心配な方の事例検討会はなかった。	浦地区では区長を中心に防災に関して進めていきたいと考えているので、今後も地域にある事業所として一緒に取り組めることを話合っていきたいと答えた。	あおぞら館新聞を発行して事業所の活動した内容を掲載し、新規のご利用者や相談があった時や地域の方に事業所を知ってもらう材料として活用していく。
F．事業所の防災・災害対策	サービス開始時や担当者会議、民生委員との連絡をとった際には、ご利用者が事業所を利用されている旨や災害時の避難場所などの確認をケアマネージャーを中心に行っていく。	越路出張所の消防隊を招いて、避難訓練・水消火器訓練を行った。同一敷地内・外の同法人合同での避難訓練も実施した。	事業所は水害に強い地域であるが、運営の実施範囲には多くの河川があるため早めの避難の声かけや日頃から地域とのつながりを大切にし、災害時の逃げ遅れなどを防ぐ声かけを今後も継続してしていく必要がある。	ご家族や民生委員との連絡を図り災害時の避難場所などの確認や連絡先の確認をケアマネージャーを中心に行っていく。